

## 柳橋物語



## 【五〇代】

▼場面場面にグツとくる言葉が散りばめられていて感動しました。友情・愛情・人情あふれる舞台。涙、涙でした。(女性)

▼一幕終了時はモヤモヤが残りましたが、最後迄観て納得。おせんちゃんの覚悟に拍手です。プロジェクトションマツピングは不評でした。(女性)

▼全く長く感じませんでした

た。おもんちゃんとのやりとりが、せつなかつたです。人を信じる事は、むずかしい。(女性)

## 【六〇代】

▼おせんのあまりにも切ない人生にいくども涙した。しかし、人生に翻弄されながらも生きていく。それは「人間は決して一人で生きていくのではない。どんな時でもお互いに支えあつて生きていく」。からなのである。

それにおせんも気づき、自らの人生を歩む決意が生まれた。こうした人生のあり様は時代を超えた普遍的な光景である。今はどうだろうか。自己責任論が蔓延し、人と人のつながりが希薄になつていく。どんな人にも生きる価値がある。決して個人の責任ではない。人間の尊厳を取り戻すために「民衆の力」を示すときではな

いだろうか。(あえて一言..映像の多さに戸惑う。大切なものが奪われるようで..)

## 【男性】

▼舞台上の迫力に引き込まれて、ハラハラ、ドキドキしながら見せて頂きました。▼演技の確かさに心配した時間の長さをまったく感じることなく没頭しました。劇団の日頃の研鑽に拍手です。

▼火事と水害。約束と誤解。次々の災難の中、知り合つた周りの人々の人情。真実の愛は、その時に信じた心。(女性)

▼今回は台本を読んでいなので、良い意味で衝撃を受けた。こんなに辛口の芝居だったとは！おせんに次々と襲いかかる苦難、救いのない生活。作者の描き方に容赦はない。救いがあるとすれば、幸太の彼女に

対する思いを支えに、子と共にこれから生き抜いていくことを決心したことか。また作者の、厳しい世間を描きながらも、「人が人を思う」ということ。ひたむきに一生懸命生きていけば、誰かが手をさしのべてくれる」。そんな暖かな眼差しを感じる事ができた。おせんを演じた今村文美の迫真の演技、他の出演者も皆達者とができた。(男性)

▼五〇年近く以前に観たのですが、ほぼ忘れていました。やはり周五郎作品を前進座が演じることの良さがあふれた舞台でした。(男性)

▼前進座のお芝居初めて観ましたが、役者ひとりひとり演技が弛緩することなく重厚で豊か；長尺の舞台で劇は見応え充分。最初、幕

が閉じていて、幕が上がる。まず最初が良かった。山本周五郎作品、たくさんの名作が残されているので、改めて老後の人生で読んでいきたいと思った。前進座は、実力ある劇団だと、感じ入りました。江戸の大火のシーンは迫力があり、リアルだった。おせん役の今村文美さんは、出ずっぱりで、二日間大変だったと思います。

(男性)

▼当時の女性の置かれた状況をかみしめながら見ました。火災のすごさが強調されていて劇のつくりもおもしろかった。

▼二時間五〇分の長いお芝居でしたが、それを感じさせない緊張感のある展開でした。おせんが大火事や水害におそれずべて失った時、まわりの人の善意で救われる。庄吉に裏切られ時

は、おもんと助け合う。人はけっして一人ではない支え合って生きていると語りかけてくるお話しでした。

(女性)

▼大火事や災害があっても隣近所で助け合っていていく庶民のたくましさを感じた。今村文美さんは若々しい声、表情、仕草で全く無理がなくおせんがそのままそこにいるかの様な佇まいだった。

(女性)

▼特に悪人は出てこない、むしろ周りは善い人ばかり。なのに、噂と思ひ込みがだんだん膨らんでいき、それに苦しめられる人がいる。昔は人の口、今はネットと変わっても、しっかりと事実を自分で確認しなければいけないのだと思った。冒頭の今村さんの着替え場面、見入ってしまいました。さすが前進座！

(男性)

▼最後まで眠らず、ワクワクして観た。庄吉にはイラツと。最後のシーンで、この子は私と幸太の子ですと、おせんが言い切った。人としての切なさ、強さを感じた。

(女性)

【七〇代】

▼おせんの気持ちがいしみる！哀しく、せつなくもし前の席に座っていたなら、ステージにあがって、おせんを抱きしめていたのでは。演劇はやっぱり面白い！！

(女性)

▼風邪のせいで頭がぼんやりです。今のことも考えられないのに。ただ面白かったのだけはおぼえています。

(女性)

▼前進座らしからぬ芝居の進め方でひきこまれました。暗転で火事場の家が朽ちる様子や大水で流される様子

が見られて、芝居に深みがありました。おせん、幸太良かった。

(女性)

▼役者さん全員のせりふがはつきり聞こえました。これ大事です。

(女性)

▼すばらしいおしほいを見せて頂きました。火事のシーンにはなみだが出てしかたありませんでした。ステキなしばいでした。

▼とても楽しく最後まで見ました。私には、あんな風になあー。たぶん駄目だなあー。

(女性)





▼本当の愛は、すぐそばに。けなげなおせんに胸を打たれる。山本周五郎の世界はとても素晴らしい。いいお芝居はずっと観続けたいものです。  
(女性)

▼貧困の中でどうやって生きてゆくか、今の時代と通じるものがありました。人と人の支え合いを考えさせられました。  
(女性)

▼二人の男性から愛され最後に自分にとって大事な人がわかった時にはこの世にいないなんて悲しくて泣かされました。  
(女性)

▼内容を知りすぎも、お芝居が何か物足りないような気分させられました。地震による火災また台風による大雨の被害、つい先日起きたばかりのことと重なり舞台を直視するのが少しばかり辛いものがありました。が、ここでも人はそれぞれ支えあって生きていくものだと思えました。  
舞台後方十四列目中央に座っていましたが、時折右肩より照明の光だと思うのがあたり少し気になりました。  
(女性)

▼野菜を届けてくれた男の言葉は深い。「正直に生きても良い事がある訳でない。うまく立ち廻っても、さほ

どでもない。」  
(女性)

▼おせんのように何も持たない貧しい人間も助けられる人が居て生き続けられる。身を捧げて命を助けてくれた幸太の深い愛に、やっ

と辿り着いたおせん。感動しました。  
(女性)

▼じれったい、もどかしい感情のすれ違い。天災が相次ぐ中を助け合って生きる庶民。ついこの間、列島を襲った台風の大洪水に啞然としていたばかりだった。あまりの苦しさにおせんが叫ぶところは胸が締め付けられた。  
(女性)

▼誰が一番幸せだったろうか？回答を得ないまま観劇が終わりました。もうしばらく自問自答したいと思いません。楽しい芝居ありがとうございました。  
(男性)

の場面の演出は迫力があり身につまされました。ありがとうございました。  
(女性)

▼地震・火事・豪雨と正に現在のよう自然災害の中、人々はどう生きていくのか、どう支え合えるのだろうか？そして、女は男を当てるにして生きてはいけないね。  
(女性)

【八〇代】  
▼大変楽しく感激しました。  
(女性)

【年代・性別不明】  
▼2回目ですが、今回は現代のCGを駆使して眠くならなくて良かったが、昔のしっとり、心の底から感じる感じがうすい。  
▼逃げられない現実を、やっとなどり着いた悲しい嘘で自分をつくらって生きる愛しいおせんさん、素晴らしい。